静岡県におけるニホンジカ捕獲の実行体制

静岡県 農林技術研究所森林・林業研究センター
大橋 正孝

講演要旨

ニホンジカ（以下、シカという）の増加に伴って生じている諸問題を解決するには、シカが増える以上の強い捕獲圧を掛けて全体の個体数を減らすことが必要であり、今後はより効率的な捕獲技術の開発や、地域が一体となって取り組む新たな捕獲体制の構築が必要である。しかし、特にシカ捕獲の実行体制については、狩猟者任せの強い依存体質や、地域のシカの生息状況や捕獲技術を学ぶ機会が少ないこと、シカ被害の深刻さを正しく理解している人が少ないことなどから、進んでいない地域も多い。

静岡県では、平成 22 年度に県でプロジェクト研究チームを立ち上げ、シカを効率的に減らすための研究に取り組んだことや、平成 23 年度に国有林がこれまでの方針を切り替え、専門的な捕獲技術者による捕獲に取り組み始めたことにより、地域を巻き込んだチーム連携の体制ができはじめている。ここでは、静岡県でのこれまで及び現在の取り組みの概要と、今後のシカの管理、捕獲の進め方のポイントについて解説する。

■ 地域のシカの生態基礎情報を調べる

ニホンジカの捕獲は、現在、狩猟（狩猟者）、被害防止目的（市町）、管理捕獲（県）で実施されているため、それぞれの捕獲を強化するには、地域のシカの生態基礎情報を調べて情報共有し、これに基づき捕獲時期や場所、方法を計画することが有効である。

環境が異なる伊豆、富士、南アルプス地域で、シカにＧＰＳ首輪を装着し、行動追跡を行った結果、どの地域のシカにも見られる普遍的な行動特性と、地域によって異なる行動特性があることなどが確認されている。

■ 体制づくりに必要な捕獲技術を開発、実証する

これまで捕獲を担ってきた銃猟者は年々減少、高齢化が進んでいる。また、旧来の巻き狩りによる捕獲は効率が悪く、個体数削減に有効なメスの捕獲に適さないことが確認されている。このため、今後は少人数で効率的に捕獲できる技術やより多くの人が捕獲に取り組みやすい技術、個体数削減効果の高いメスを選択的に捕獲する技術などの準備が必要である。このような視点で開発、実証してきた捕獲技術について説明する。

■ 捕獲が進んでいない地域で捕獲を進める

捕獲を進めてきた結果、道路がない山域や急峻な地形など、捕獲が困難で局所的にシカが多い場所があることが確認されている。このような場所で地域を巻き込んで捕獲を進めるポイントなどについて紹介する。